

JANUARY 1992 VOL.45

# ARAI NEWS

“オープンフェイスの魅力は、その開放感や軽快感だけではないのだろうか。”アライがSZ $\alpha$ を開発するにあたり、提起した問題のひとつです。もちろんオープンフェイスだからといって、安全性をないがしろにしていた訳ではありません。強靱な帽体と吸収しやすい柔らかめの緩衝体を組み合わせ、最大限の安全性を確保するよう努力してきました。けれども、フルフェイスタイプと比べると、どうしても安全性に差が出てしまいます。まず第一に、アゴまでガードされていること、これは形状の差ですから致し方ないことです。そして第二の点として、フルフェイスの場合は、帽体で覆われている全ての面に緩衝体が張り巡らされているのに対し、オープンフェイスでは、通常規格で定められている保護範囲を中心とした、頭部周辺に限られていることです。



す。もちろんSZと同じ様に、取り外し可能なために、サイズ違いのオプションに交換したり、簡単に水洗いもできます。

そこで、SZ $\alpha$ では、帽体で覆われている全ての面に対して、フルフェイスと同じ様に、緩衝体を組み込むことを第一の目的としました。今まで緩衝体の組み込まれていなかった、耳の周辺にまで緩衝体を組み込むことは、かぶりにくくなる、あるいはかぶり心地が悪くなるなどの理由で見送られてきました。SZ $\alpha$ では、その形状と縫製方法を全て見直すことにより、良好なかぶり心地を維持したままで緩衝体入りのイヤークラップを完成させたので



安全性への追求は、緩衝体だけではありません。外側の帽体においても、側頭部下側の剛性を上げるために、エッジを設け、重量を増加することなく帽体強度を向上させています。さらに、CLC構造により、最小限の重量増で、世界で最も厳しいとされるスネル30規格も余裕を持ってパスすることができました。



このようにSZ $\alpha$ の安全性の向上については、ヘルメットに関する規格で定められている保護範囲の外になる側頭部下側を中心に勤められてきました。規格の中では、どのヘルメットでもそれなりの性能を有しているものですが、アライは、実際の事故例や転倒例を検証する中で、打つ例の多い側頭部下側など、たとえ規格外であっても、ライダーの安全を第一に考え、できる限りの安全性能を追求してきました。このSZ $\alpha$ もそんなアライの答えの一つです。

## フルフェイス並みのオープンフェイス

SZ $\alpha$ の誇るべき点は、その安全性能です。

(株)アライヘルメット  
 〒330 埼玉県大宮市東町2-12  
 TEL(048)641-3825~7



●アフターサービスの窓口は品質管理課です  
 製品の事なら、お気軽にご相談ください。  
 直通 TEL(048)645-3661